

山古志村の復興を支えた人の力、人の心

2日目は、分科会。2講座、8分科会、4つの現地分科会、党議員団は「中越大震災から復興した山古志を訪ねる」バスの旅に参加しました。

今から9年前の2004年10月23日に起きた中越大震災。新潟県山古志村などの中山間地では地震・地滑りなどで大きな被害を受け、山古志村では14の集落に住んでいた690戸2167人が全村避難を余儀なくされました。現在、戻った世帯は約7割、人口は6割弱になっています。その復興の様子と課題を、現地で見えてきました。

貸切バス2台ほぼ満席で、新潟駅前を出発しました。私たちは2号車。案内の日本共産党の県会議員の説明を聞きながら1時間ほど山古志村に。

山が動き、川が堰き止められ！

被害の一番ひどかったという木籠



(上)も 集落では、芋川が堰き止められて水没し、壊れた家をそのまま保存しています。自然の力の強さを見せつけられました。

現在、山古志村は、合併で長岡市になっています。山古志に入ると、

山崩れの防護壁等があちこちにあります。村役場は山古志支所になりました。震災で、玄関前が



70センチも隆起。体育館で日曜出勤の地域振興課の話し上手な職員の説明を聞き、DVDを視聴。



復興住宅に県産材

復興住宅を見学。県産材を使った低コストモデル住宅で、雪が積もっても暗くならないように、吹き抜けになっています。現在は476世帯が山古志に住んでいて、公営住宅は全部で35戸。自力での住宅再建には、復興基金事業で、一般の行政施策では支援が難しいと思われる被害にも、様々な支援がなされました。



昼食は特産の料理で

昼食は、復興資金を活用してつくられた農家の女性たちによるレストランの、野菜たっぷりのおいしい弁当。特産の神楽南蛮のてんぷらを、ピーマンと違って食べた人が、辛くて手が止まっていた。

食後には物産の販売もあり、参加者は何がしか購入。議員団は神楽南蛮味噌などを。



錦鯉もすっかり復活

支所出発前に、玄関前の錦鯉を見ながら説明を聞きました。壊滅的な打撃を受



けた錦鯉ですが、生産と販売も順調に回復。説明してくれた



職員のお宅でも錦鯉を養殖しているそうです。道の脇に養鯉場がたくさんありました。また、棚田を利用して鯉を野外で育てる時期だそうで、田と池が隣り合っています。

闘牛復活に岩手から南部牛

1000年の歴史を持つ闘牛も復活。月に2回程開催されます。この牛は、岩手から贈られた南部牛。

飼主の松井さんの言葉は「震災での全国からの温かい支援に対し、村に戻り元気に暮らすことが何よりの恩返し」など、一つ一つが重いものでした。



復興は人の力で

過疎化、高齢化が進み、それに対応していくかが課題となっています。今回、山古志で感じたのは、コミュニティの重要性、地域外の人との交流。これらで、復興を進めることにできたのだらうと思います。

震災後、日本共産党がいち早く復興救援センターを立ち上げ、ボランティアの多くの人をつなげてきたことで、長岡市から感謝状を受けました。

自然にはかなわなくても、それを乗り越えるのは人の力、人の心です。